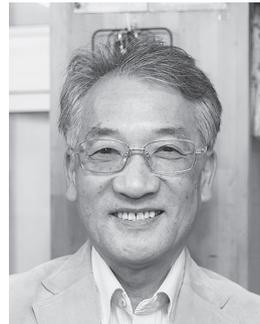


新聞の「活字」が持つ力を広めたい！

株式会社 田代新聞店



代表取締役 田代嘉夫氏
柏崎市安田1734-5
Tel.22-4363 Fax.22-9567

レビ鑑賞をよくします。BSで歴史・自然・科学・旅番組を見るのが好きですね。体を動かすことでは、お付き合いでゴルフをすることかな」

何時に起きられるのですか？
「寝る時間は午後九時、起床時間は午前一時十五分ですね。新潟県の中でもこの地区は最初に新聞が販売所に届く場所だからね」

と、説明していただきましたが、睡眠時間の短さには驚きました。

また配達する地域は田尻・安田・南条・中鯖石・南鯖石と広範囲で住宅密集地もあれば、点在する場所もありとても大変そうです。

お仕事の中で記憶に残った事を挙げてもらうと、

「二年前の一月二十五日の豪雪で、朝刊の新聞を配り終わったのが夜の八時過ぎになった時は大変でした。又、中越地震の時は電気が無くて暗い作業場で新聞を間違えないように組み、スタッフと配達した事かな」

「でも、避難所に新聞を届けた時、みんなが喜んで新聞を囲んで読んでいた時は嬉しかった」

と話す田代さんに、自然災害の中でも、新聞を各家庭に配達する事で、ニュースを活字で届ける使命感やプ

ライドを感じました。

過疎化の進む社会に対しても、毎日新聞を配達する仕事だから出来る【地域の見守り活動】、一人暮らしの世帯の方が新聞を何日か溜めていたら、あらかじめ聞いていた連絡先に知らせる無料のサービスにも力を入れておられるそうです。

そして、新聞の「活字」を読む事で伸びる想像力や思考力に加え、やさしさや思いやりの心を育てる事を、もつと若い世代や子供達に広げていく力になりたいと熱い思いを話していただきました。

座右の銘は【心に勇ある時は迷いなし】とはつきり答える田代さんの目は輝いていました。志のある方の強さとやさしさを感じる時間でした。

（十人衆 増・竹 取材）

例年より温かい日が続く十一月の下旬に、市内安田の国道252号線沿いにある、株式会社田代新聞店におじゃましました。お忙しい中、和やかな笑顔で代表取締役の田代嘉夫さんから迎えて頂きお話を聞かせていただきました。

田代さんは昭和三十三年生まれで柏崎高校、中央大学を卒業され、新潟県労働金庫に二十五年勤めた後に、六十一年続く新聞店の三代目を引き継ぎ現在にいたるそうです。

田代さんには三人のお子さんがおられますが独立されていて、普段は奥様とご両親の四人暮らしです。長女の方が夏に出産されて、お孫さんが出来たと嬉しそうに話っていました。

ご趣味はありますか？

「趣味とまではいきませんが、テ

